

# 民主島根

2019年  
**7.7**  
第1340号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 松江 志位委員長迎えて演説会 共産党躍進で安心の年金を

### 第2会場も満席の800人 熱気いっばいに

日本共産党の志位和夫委員長は6月23日、島根・鳥取両県を駆け巡り、市民と野党の共闘で野党統一となった無所属・女性（元衆院議員）の勝利と日本共産党の躍進を訴えました。

志位氏は、年金問題が参院選の争点になってきたとして『マクロ経済スライド』による年金の7兆円削減が、『減らない年金』か、争点がくつきり浮き彫りになってきました。日本共産党の躍進で、安心の年金、頼れる年金を一緒につくっていきましょう」と熱く訴え、大きな拍手に包まれました。



全国すべての1人区で、最大限の協力でたたかいぬき勝利を勝ち取る決意を訴える志位委員長（松江市）

## 6月県議会の論戦から

日本共産党の尾村利成県議は6月14日、一般質問に立ち、大國陽介県議は6月19日、一問一答質問で県執行部をたどりました。（2面に続く）

### 大國県議の一問一答質問

#### 子ども医療助成の早期拡充を

日本共産党の大國陽介県議は19日の県議会で質問し、丸山達也・新知事に対し、中学校卒業まで医療費の窓口負担を無料とするよう、県として制度の早期拡充を求めました。



大國氏は、丸山氏が4月の県知事選で「最低でも県内すべての自治体で小学生までの医療費を無料にする」との公約を掲げていたとし、「知事も感じておられる通り、子どもの医療費助成の充実が、子育て世代から強く望まれている」と強調しました。

丸山知事は「子ども医療費の軽減の施策は県内に限らず、国全体で同一水準であることが望ましい。国への重点要望のなかで継続的に要望している。今後、医療費助成をはじめとする他の子育て施策を含めた充実へ向け

#### 高額療養費制度の運用改善を

大國県議は、国保加入者において高額療養費を請求できるにもかかわらず、請求漏れ（平成30年度診療分で、14市町村で約4000件、3900万円）になっている実態があり、高額療養費制度の周知と運用が不十分なため、家計に支障が及んでいる実態を取り上げました。

大國氏は「県立病院をはじめ、医療機関等において制度の周知に努めることはもとより、必要とする方すべてに『限度額認定証』が発行されるよう改善すべき」と求めました。



#### 松江市・意宇川 尾村県議、吉儀市議が調査

日本共産党の尾村利成県議のもとに、地元住民から松江市内の住宅街を流れる意宇川の護岸改修・修繕要望が寄せられていた問題で、尾村県議はこのほど、吉儀敬子市議、党竹矢支部の岩本晃司支部長、地元住民、県とで現地調査を実施しました。（写真）地元住民からは「台風シーズンに2年続けて避難勧告が発令されました。改修・修繕を急いでほしい」との要望が出され、県は「改修・修繕について持ち帰って協議したい」と答えました。

#### 鼓動

この間、入院を繰り返したせい、人の寿命について考えることがよくある。それだけ年老いたというところかも知れない。「人はいつか死ぬ」とわかっていてもなかなか自らのこととしては捉え切れないものだ▼そして、いつも疑問に思うことは「なぜ女性の方が長生きするのか」ということだ。国別の平均寿命を比べても、どの国も女性が男性を上回っている。わが国（2016年）では、男性80・98歳なのに対して女性87・14歳と6・2歳も上回っている▼いろんな要因があるようだが、生活習慣の喫煙や飲酒が男性に多いことも一因という。強いアルコール度数のウォッカを飲むロシアでは、男性の平均寿命は65・29歳と低く、女性よりも11・2歳も早死にしている。一方、飲酒が禁じられているイスラム国では総じて男女差が少ない。数十年來、飲酒を続けてきた我が身としては、長寿を願ってももう手遅れなのかもしれない▼そのほかの要因としては、女性ホルモンに、悪玉コレステロールを減らし、血管をきれいにする作用があり、女性の体を守っているという。さらに、遺伝的な理由として、性染色体の違いなども影響しているという。いづれにしても、生物学的な要因である▼確かに、周りを見渡してみると、老後に夫に先立たれて妻だけが生きていくケースが圧倒的なようだ。ある男性友人は「その方がいいよ。男一人だけ残されてもなあ」とぼやくが、それはこれまで不摂生をくりかえし、家事がまともにできない男のわがままというものだろうか。自戒の念もこめて。（吉）

て検討を進めていく」と答えました。大國氏が小学校卒業までの医療費無料化は実現させると受け止めてよいのかとたずねたのに対し、丸山知事は「公約なので、実現に向けて取り組んでいく」と語りました。

大國氏は、予定入院の方に対し、入院される前に話をし、限度額認定証を必ず持つてくるようお願いしている医療機関が、出雲市内にはあると紹介し、「運用改善に向けて取り組んで頂きたい」と強調しました。